

2022年5月10日（火）デーリー東北 22面掲載



南八甲田猿倉岳東斜面で見つかった倒木の現場＝7日

# 南八甲田突風で倒木か

猿倉岳  
東斜面 「風速50メートルの可能性」

南八甲田猿倉岳の東斜面で、突風が原因と思われる倒木が発生した。雪山でスキー中だった八戸市の男性(60)が3日、太い木が吹き飛んだように倒れているのを発見した。男性は本紙取材に「想像を絶するような風が吹いたのではないかと語った。」

(岩村雅裕)

倒木の現場は、猿倉温泉から乗鞍岳や柳ヶ峰に通じる登山道上。

7日に現地を調査した弘前大学大学院工学研究科・気象学研究室の石田祐宣准教授によると、猿倉岳の東斜面中腹から矢櫃池にかけて、400四方で多数のブナやアオモリトドマツが倒れ、枝や葉が激しく飛散していた。石田氏は「現場の状況から、風速50程度の風が複数回吹いた可能性がある」と推測した。

南八甲田では、過去にも

突風が原因とみられる倒木が発生している。ただ、どのような気象条件になれば倒木に至るまでの風が吹くかなど、実態は解明されていない。

調査に同行した自然保護団体「八甲田・十和田を愛する会」の久末正明代表は「過去の発生例からも再び同様の現象が起きる可能性もあるので、登山や山菜採りで入山する場合は天候に気を付けてほしい。この現象を解明すべく行政も動いてくれれば」と話した。

※この画像は当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科  
E-mail:r\_koho@hirosaki-u.ac.jp